

第1回 大月短期大学基本問題審議会

日時: 令和7年5月29日(木) 14時から15時30分

会場: 大月市役所 本庁2階 市長室

出席者:

審議会 委員	大霜委員、相馬委員、入倉委員、竹下委員、永久委員、奈良委員、日野田委員 (安藤委員は欠席)
大 月 市 (事務局)	小林市長 坂本総務部長、(以下企画財政課)杉本課長、三木主幹、紫村主事 (以下短大事務局)小川事務局長、西室主幹

本日の次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 委員紹介
4. 審議会正副会長選出
5. 諮問
6. 市長あいさつ
7. 審議会の概要説明
8. 大月短期大学の現状報告
9. 質疑応答・意見交換
10. 今後のスケジュールについて
11. その他
12. 閉会

1. 開会

・三木主幹より開会が宣言された。

2. 委嘱状交付

小林市長より委員に委嘱状の交付が行われた。

3. 委員紹介

大月市立大月短期大学基本問題審議会条例第3条の規定により組織され、就任した8名の委員の紹介を行った。続いて本審議会事務局の大月市職員6名の紹介を行った。

4. 審議会正副会長選出

審議会会長及び副会長は本審議会条例第5条第1項に従い、委員の互選によって選出された。事務局案である会長に大霜委員、副会長に相馬委員が委員一同のもと承認され、会長及び副会長に就任した。

【大霜会長あいさつ】

只今、会長に選任されました大霜です。よろしくお願いいたします。

錚々たるメンバーがおられると思いますが、基本問題審議会というものの当然与えられた命題があらうかと思しますので、ぜひ皆様の闊達な意見あるいは協力をいただければと思っています。

浅学非才でありますけども、皆様の支えで無事この会が所要の目的を果たせるように出来ればと考えております。よろしくお願いいたします。

5. 諮問

小林市長より本審議会の諮問が行われた。

【諮問内容】

今後の大月短期大学の在り方について

6. 市長あいさつ

【市長あいさつ】

本日は、ご多忙の中、委員の皆様にはご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、平素より本市の市政運営、教育行政に対し、ご理解とご協力をいただくとともに、今回の大月短期大学基本問題審議会委員への就任をご快諾いただき、重ねて感謝申し上げます。

本学は昭和30年に経済の単科の短期大学として創設し、今年で70周年を迎える節目の年となっております。

これまで 11,890 人の卒業生を輩出するなど、地域経済に大きな貢献をしてきたところであります。

しかしながら、近年、少子化の進行や高等教育の就学支援制度の導入より、大月短期大学の入学者は減少傾向にあり、本学のみならず全国的にも短期大学を取り巻く環境は厳しい状況のなか、新たな魅力を持たないかぎり本学の廃止も選択せざるを得ない状況であると危惧をしているところであります。

特に、少子高齢化の進行が著しい本市において本学は教育、文化の拠点として、地域課題を解決する研究機関、またリカレント教育など地域人材の育成の場として、学生が市内に居住し地域活性化への参画を頂くなど非常に重要な役割を担っていただいているところであります。

本審議会におかれましては、このような状況を踏まえていただき、現実を直視しながらも、多様な視点を持つ皆様に忌憚のないご意見を頂き活発な議論をいただく中、本学が本当に存続し続けることが可能であるかということも含め、大月短期大学が地域社会に貢献し続けるための在り方、新たな可能性、その実現に向けて具体的な方策が示しいただきますようよろしくお願い申し上げます。

結びとなりますが、委員の皆様との審議が本市のかけがえのない大学の未来を切り開く契機となりますことをご期待申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

7. 審議会の概要説明

三木主幹より審議会の設置目的等、審議会の概要説明が行われた。

8. 大月短期大学の現状報告

小川事務局長より大月短期大学の現状報告が行われた。

9. 質疑応答・意見交換

委員	4年制大学への編入が多いということは前から知っておりました。その特色を学生や高校の先生にアピールすることですぐに定員が埋まっていくのではないかと思います。このような短大があるということを知ったときに非常に驚きました。そこをアピールしていき、なおかつ山梨県と長野県出身の学生が多いということなので、アプローチにかけられる費用は限られていると思うので、幅広にアプローチしていくのではなく、山梨県と長野県を中心にアプローチしていくのがいいのではないかと思います。周知の方
----	--

	法として、学生と学生の親へのアプローチが必要となるので、学生に対しては instagaram や tiktok などのSNSを活用してアプローチをしていくのがいいと思います。学生の親に対しては、編入の部分を効果的にアプローチしていくのがいいのではないかと思います。非常に魅力的な短期大学であると思うので、そこを周知していくことが大事だと思います。なおかつ、若い人が大月に住んでくれるということは大月の魅力アップに繋がっていくと思うので、大月短期大学を活性化させて大月市の魅力向上をしていきたいと考えています。
委員	一般会計繰入金が大月市からの支出している部分で年々増えているということになっているのでしょうか。
事務局	そうであります。
委員	その他に短大に関して市が支出しているものはないですか。
事務局	繰出金と2名分の会計年度任用職員の人件費を出しています。
委員	それはそこまで影響がないのですか。
事務局	2名分で600万円程度であります。
委員	この資料にそれがプラスされた分が市からの支出ということで良いか。
事務局	そうであります。
委員	これが学費と量が逆転している状況が続いていて、それがさらに拡大していく可能性があるということでしょうか。
事務局	公立であるので地方交付税として国からの措置がございます。定員割れが続くとそれが打ち切られるという話があります。
委員	定員は何%を下回るとそれがなくなってくるのですか。
事務局	地方交付税の算定の基礎は学生数になっています。学生数が減ると交付税の額が減ります。
委員	一人当たりいくらかわかりますか。
事務局	31万円程度減ります。交付税の計算が難しいが、単位費用で31万円程度だったと思います。学校を運営しないとそのお金が一切入ってなくなります。
委員	交付税が入ってこないからその分負荷がかかるということか。
事務局	短大があることで決して損はしていません。
委員	人件費比率にあたる部分はおよそ50%程度ということで良いですか。その数字は悪くないです。
事務局	教授の人件費と職員給与費があります。
委員	合わせると人件費比率はどのくらいになりますか。
事務局	66.3%となります。

委員	結構厳しい感じです。
委員	一般会計繰入金の部分でどの費目に充てるのか決まっているのですか。あるいは不足する部分に充てているのでしょうか。
事務局	不足する部分だと認識していただければと思います。
委員	不足分を一般会計繰入金で賄うということであれば、使用料や手数料は学生数の増減によって金額も増減すると思いますが、日本全国で子どもの数が減ってきている現状からすれば、一般会計繰入金の赤字補填という考え方でいくと常に不足が生じてしまう関係が続いてしまうということではないのでしょうか。
事務局	そうであります。
委員	編入学の実績のところでは県内の4年制大学が山梨県立大のみとなっていますが、この傾向は以前も同じでしょうか。都留文科大学はどのような感じになっているかわかりますか。
事務局	同じ傾向だと思います。県内の学生は就職の方がどちらかと言えば多いです。地方から来ている学生は地元に戻って地元に近い大学に行く傾向があります。学部的に経済科に行く場合が多くなっています。
委員	国公立への編入実績は卒業生の地元に近いところと考えてよいでしょうか。
事務局	そうとは限らないです。高崎経済大学は入学生が多いが、群馬出身の学生だけが行っているわけではないです。過去の実績や積み上げがあるところは行きやすいということになると思います。先ほどのPRにもありましたが、過去の蓄積したデータがありますので、キャリアの方もよく知っているので入れやすいということがあるかもしれないです。
委員	高崎経済大学は経済の大学なので理由がわかります。学部が分かれば面白いと思いました。比較的地元に近いところ戻って進学している傾向があるとのことありがとうございます。
委員	2040年には現状から35%減になるという予想が出ており、大学がやっていけなくなるくらいの数字が出てきていると思うので、他の地方都市も2040年には18歳人口が減るとなっています。それを受けて現状東京の私立大学では、指定校推薦を増やしていて、山梨県も指定校推薦で東京の学生を確保するという流れになっていると聞いています。その辺も踏まえてかなり厳しい状況ではないかと思います。そこは把握しておくべきことだと思います。
事務局	ご指摘のとおりだと思います。
委員	根本的な話かもしれませんが継続するという前提で議論していけば良いのでしょうか。

小林市長	先ほど申したとおり基本的にはなんとか残したいと思っています。しかしながら、委員の言うとおり2040年の時に存続し続けることが可能なのか、2040年のことは先過ぎるので予想することは難しいが、基本的にはなんとか存続する方法を模索していきたいと思っています。大月短期大学を無くした大月市がなかなか想像できないです。
委員	承知しました。年間約2億円の支出に見合う経済効果、もしくはそれを払ってもよい価値の創出みたいなものが大義名分になると思います。竹下委員がおっしゃっていた大月短期大学のセールスポイントは編入であるということだが、編入を売りにするのが一つのセールスポイントになると思うが、そうすると公立の短大が編入をセールスポイントにいいのだろうかという大義名分の部分が出てくると思います。私立であれば非常に良いセールスポイントになると思いますが、公立の短大がそれを売りにしていいのかという疑問が出てくると思うが、そこはどうお考えでしょうか。
小林市長	公立であって大月市の地域経済のことなど目的がずれているのは否めないところがあります。今求められている大学というものを地域の研究機関であったりとか、地域を活性化したりするために地方の大学はこれからシフトしていくのであらうと思っています。編入学という部分は魅力としてこれからも外せない魅力だと思いますし、それ一本で行けるかというところではないので新しい魅力を作ることが必要だと思います。公立大学が編入学を売りにすることはずれていると言われればそのとおりだと思います。
委員	ずれていると申し上げているわけではなく、どのようにご判断されているかということであって、さらにそれで大義名分が立つのであればどんどんセールスポイントにすればよいと思います。その論理が綺麗でないと経営だけのためにこれを売りにしているという指摘が出てくる可能性があります。
委員	今の高校生は4年制大学に行きたがると思うが、2年間で勉強することには限界があるなかで、山梨県内には経済学部がなく、県立大学に似たような学部があるが、経済学部自体はここしかないのです。そういった意味で経済学を勉強してもらって、面白ければ3年、4年と学びを深めてもらう建付けでもいいと思います。さらに勉強を深めてもらうために編入を斡旋しているというイメージでいいと思います。
事務局	多数の意見が出たと思いますが、一旦委員に振りたいと思います。いかがでしょうか。
委員	人口減少期のこの国において、どんな議論をしてもマーケットの取り合いにしかならないです。そのなかで、一つはマーケットの論点をずらすこと

	と、もう一つは海外の学生を増やすということでもあります。海外との連携を進めていく。例えばマレーシアでは統一政策で成功をしています。マレーシアの大学やイギリスの大学と手を組んでファウンデーションにすることもありだと思います。世界中で取り合いをしているので取り込みたいと思います。アプローチをすればいくらでも手を組みたい大学はあると思うので、やりようはいくらでもあると思っています。
事務局	ありがとうございます。海外との提携については大月短大の方も外国人留学生をターゲットにしていけないといけないということで、今年度から日本語教育が出来る先生に入っていていただき、体制を整えているところです。一遍に整えることは難しいと思います。
委員	事例の紹介となるが、教員をしている大学は世界中をマーケットにしています。そういう方々に対しては授業を英語で行っています。一方で理事長をやっている大学では中国を中心とした留学生が毎年50人から60人入ってきています。ただ、英語で授業できるほどのファカルティの実力ががないので、日本語で教えています。中国人留学生に限った話ではないが、日本語能力がN2であることが基本ではあるが、N2相当の方も入ってくることがあります。N1でも授業について来られるかと言われると微妙なところです。留学生を入れたことは良いが、授業が成立しないという状況も懸念されます。留学生も入れれば良いという話ではなく、こちら側の力が必要であります。
委員	山梨学院大学も国際化を進めており、インドを一番に考えていてあと一年の間に学生の35%を留学生にするという目標を決めています。経済界にいるなかで今後のことを考えたときに、現状採用が出来ずに事業を縮小せざるを得ない状況があります。逆行する流れとして、AIが非常に進化をしていて、AIによって人手不足が補えるような状況になってきており、AI自身も使いやすくハードル下がってきているので、AIが出来ないと経済界で生きていけない時代があと5年後くらいに来るのではないかと個人的に思っています。ただ、出来る出来ないではなくて、有用的に使いこなせるかが重要になってきます。そのなかで、AIの技術者を育てる大学は絶対に必要で、今政府でもAIの技術者が70万人不足していると言われているので、そこに特化していくといいチャンスではないかと個人的に思っています。よく言われているのは中小零細企業でもAIでプログラミングを組める技術者が最低でも1名必要であると言われていて、そこから算出して70万人足りないと言われていると思います。そういった人たちを育てるのもタイミング的に面白いのではないかと思います。
事務局	只今のご意見のなかで国際化、留学生という話があり、そうは言っても簡

	単にいかない課題があるというご意見をいただきました。それに対して短大がどうするかということはお答えしかねますが、課題感として持っております。課題があるからやらないという選択肢はなく、課題があるならクリアしていきたいという考えもある。ICT機器を使って克服できないかという話も以前から出ているところであります。良い事例がありましたら今後ご意見いただければと思います。
小林市長	長栄大学とはどうなっているのか。
事務局	語学留学はしています。編入をした学生はいないです。
委員	理事長をしている大学では武漢大学と提携を結んでいます。理事長をしている大学に入って武漢大学で卒業することも可能です。武漢大学は世界ランキングでも100番くらいの優秀な大学へ学歴ロンダリングが出来ます。売りにしてはしていないが、セールス出来ていないという反省が一つあります。成功例として兵庫県の豊川市に平田オリザさんが学長になって演劇の学校を作りました。そこはたしか兵庫県立大学が法人だと思えますが、ものすごい差別化を極端に行うことで人気が出ていることもあります。AIの差別化もいい話だと思いますが、抜きん出た差別化を図っていくことはいいと思いますが、それにもお金がかかるという覚悟が必要であります。
委員	大月短期大学の特別聴講生として4年間無料でやらしていただいています。学生を4年間見ていると自分が大学生の時と比べて一生懸命にやることで編入学が増えることは当然だろうと思えるような授業の出方をしています。大月市という人口の少ない中でこの短大に来てこの短大を卒業して編入学、就職していく、あるいはアパートを求めて来ています。最近聞いた話でアルバイトが出来ないという話を聞きました。なぜ出来ないのかというと2年で単位を取らないといけなくて、カリキュラムが厳しくてなかなか出来ないという話をしていました。この大学の学校としてのポテンシャルはもちろんと、大月市に果たす役割をどう昇華していくかを視野に入れながら、これを守っていくとなるとそれなりの決意が必要で、それに応えてくれる若い人が大月短大に来ていていると思います。在校生の一部の特別聴講生としての意見です。
委員	私も特別聴講生として授業を受けています。2年間の学びの中で学生が何を学んだかがとても大きいと思います。先ほど高校にアプローチするときという話がありましたが、在学生の学びの様子が伝わるのが一番大きいかなと思います。そういう意味で色々な組み合わせがあると同時に地元の大学としての意味、特に大月短大は特別聴講生という無料で授業を受けられるものがあります。私も今2つの講座を受けていますが、それを

	受けると地域づくりで大きな役割を果たしていると思います。前年度最後の運営委員会の折に学長が地域研究センターを立ち上げて地域との連携、地域の課題をどう解決するのかを発信していくという話があったので、これからそういう部分の充実が必要であると思いました。
委員	地域課題解決はまさに各地方都市で課題が山積しており、人口減少から始まって今後どうするのかという話を多く聞きます。今、山梨大学もまさに地域課題解決のプラットフォームの大学にしようという話をしています。コロナの前から産官学金労言で連携して地域課題を解決するという話をしていました。申し訳ないながら行政が絡むと実績が出ないということが全国的にあって、今度は次のフェーズとして大学がそのようなプラットフォームを作って、大学が中心になりつつ、経済界や他のところが連携して変えていこうということを山梨大学が先駆けて10億円規模の予算を文科省から取ってきてやり始める段階に入っています。これが成功していくとそれが標準化されて全国に広がっていくと思います。そういう意味では自分の地域に大学があるということはとても大きいことであります。今言った話も含めて地域課題の解決をする大学が今後出来てくると思うので、そういうことも含めて学生が残ってくれることが一番いいと思います。
小林市長	行政が旗振りをするとうまくいかないということはどういうことですか。
委員	担当者が数年で変わるというところだと思います。本気度などそういうことも含めて全国的に成果が出ていないです。地域創生本部があって産官学金労言が連携をしてやると言っていたがそれもうまくいっていない。そのプラットフォームの中心となっているのが行政で、山梨県では山梨県庁が今まであまり出来ていなかったです。スピード感がなく改革しながらやるというビジネス界では当然のことがあまり出来ていなかったです。一回決めたら1年間それをやり続けるというスピード感では色々なことに対応できないと思います。
事務局	委員いかがでしょうか。
委員	市長のあいさつのなかで、大月短期大学の学生による大月市の活性化ということが非常に望まれるとありますが、今、大月市外から短大生が243名来ているということで、大月市は人口減少で特に若い人がいないということで、この人たちを地域づくりはもちろんのこと、色々な大月市の事業に入れることがあれば、市の事業に学生を入れて社会経験を学ばせる取り組みが必要だと思います。学生による大月市への経済的な面での大きさを考えると委員から大月市が負担する覚悟があるのかという話がありましたが、学生を協力させてそれによって活性化させることを考えれば、そのくらいの負担をしてもいいのではないかと、そういう幅の作り方を考えて

	いってもいいのではないかと思います。
事務局	委員のおっしゃった事業ということは、以前にも軽トラ市と一緒に出店したり、笹一とコラボして一緒にお酒を造ったりしてきました。最近ではいちごプロジェクトもやらせていただいております。様々な意見が出ましたが、もう一度委員ご意見ありますでしょうか。
委員	今、大阪の某市でも似たようなことの話し合いが行われています。大阪では大都市にも関わらず過疎地域が起り始めています。特に大手メーカーの経営によって町が崩壊しているところがあります。そこで駅前開発によくある4階建てで1階に飲食店を入れて2階にファミレスを入れてみたいとのやろうとしていた時に、やめた方がいいと、ワンフロア丸々、市の方でお金を出して、その地域はシングルマザーが多く、貧困層が西成地区と同じくらいいる地域であるので、AIのエンジニアのトレーニングセンターを作って1年間その人たちを囲い込んでバイトさせるよりも、そこで勉強させたほうが年収3倍になると、そうしたら全国から優秀な人が集まってくるという話をした。その貧困を逆手に取って、そこで夜間学校のようにして勉強させて貧困を脱するというストーリーを作るのもありだという話をしました。そうすれば、公共的な意味もあり、東京からも人が来る、そういう発想でやるのも一つの形であると今水面下で動き始めています。バイトしか出来ない労働者が余っている状態であるので、大学がある以上そういうところに乗っかるのも一つの手だと思います。
小林市長	先ほど地域課題解決のプラットフォームは市がやるよりも大学で行った方がスピード感に違いがあるという話があったが、大月短大とコラボした軽トラ市やいちごプロジェクトは行政主導で行政の発案で行っていたと思いました。今、都留高校のほうでつる探という取り組みがあり、それは自分たちで課題を見つけて、自分たちでその解決策を考えようという子どもたちが自分たちで学びをされるということをさせてあげないといけなと感じました。大学の魅力として自分たちで取り組んだというものを作ってあげないと感じました。委員が言うように地域課題の解決を学生と市で行い、その中で市の役割をしっかりと考えて、学生にそれを学んでもらう学び舎としての魅力をどこにどう作ってあげるのかということが必要だと感じました。
委員	また事例の紹介になるが、経営している学園ではまさに、学生が主導で色々なことを始めることが中高の売りになっています。私立でもそういうことが行われています。それには5年から10年掛かっているということをお伝えしたいと思います。別の話になるが、この短期大学は法人化していないと思いますが、経営責任の構造的にトップは市長になるとは思います。日々の経常的な運営は運営審議委員会があるということですか。経営の

	主体や経営責任はどこにあるのでしょうか。
小林市長	設置者は大月市長でありますが、どんなことを教えるのか、どんな学び舎にするのかというのは学長となっています。
委員	教授会は諮問会みたいなもので大学は学長が経営責任を持って、その経営の責任はどのような形でお持ちになるのでしょうか。例えば私立であれば、赤字になったら当然必要な手続きを行わなければならないし、経営と教学が分離されていますが、そのあたりの経営と教学の分離とか、あるいは経営責任はどのようにしているのかとかはどのようになっていますでしょうか。
小林市長	そこが先ほどの一般会計繰入金の考え方が赤字補填をしていることがその要因になっていると思っています。その役割や責任がどこにあるのかが明確になっていないことや、学長がやりたいことに対して教授会が物申す仕組みになっており、学長がやりたいことがなかなか進んでいくことが難しいような状況になっているので、今の質問の答えとしては、そこが明確になっておらず、それが一般会計繰入金を必要に応じて支出しているという状況になってしまっています。
事務局	経営責任は学長に問われないということになります。
小林市長	この仕組みはなんとかしないといけないと思っています。
事務局	大月市立中央病院は7年ほど前に独法化をして、独立行政法人として理事長に経営責任を移転しましたが、短大はまだ行っておりません。
委員	その辺の差別化を同時に考えていかないといけないと思います。
小林市長	学長は独法化したいということを言っていますが、進めることが出来ていないです。学長が来るタイミングはいつになりますか。
事務局	今のところ、7月3日を予定しております。その時には学校側の考えを述べていただくために学長にも来ていただく予定です。 1回目ということで、もう既に多数の意見が出たところでございます。キーワードの中で、国際化を図ることやAI人材の話がございました。その中で課題感もあるから簡単に出来るものではないという意見もあったと思います。そういったことを真摯に受け止めまして、事務局の方で精査させていただきます。大霜会長を初めとして答申の方向性をまとめていただくことがございますので、ぜひお付き合いいただきたいと思います。
小林市長	商品としての考え方、サービスを向上させることで、嘉悦学園はストーリーを作って見せ方を変えることで入学者を増やしたという状況を作ることが出来ているという話があり、そのやり方をまずやらなければならないのではないかという話を会議が始まる前にご意見をいただきました。
委員	中身はすぐには変わらないのでどのように見せるかという部分は即効性が

	あると感じました。
事務局	貴重なご意見ありがとうございました。

10.今後のスケジュールについて

事務局より今後のスケジュールについて報告があった。

11.その他

12.閉会